

表示板制御情報システム

路面状況と連動して自動表示が可能です

凍結センサによる路面状況の収集、気象表示板の制御をすることにより路面状況と連動した表示板の自動表示が行えます。また、表示板制御画面から表示内容をブロックごとに指定することにより、任意の表示パターン(固定)の表示が可能です。

システム概要

●通信制御

各機器間の通信はTCP/IPプロトコルを使用するため、表示板制御で一般的に利用されているMC(メインコントローラ)を設置する必要がなく、導入費用の低減、事務所の設置スペースの削減が図れます。

センサ-表示板間に距離がある場合でも自営線や専用線を敷設する必要がないため低コストでシステム構築・運用が可能です。

●路面状況収集

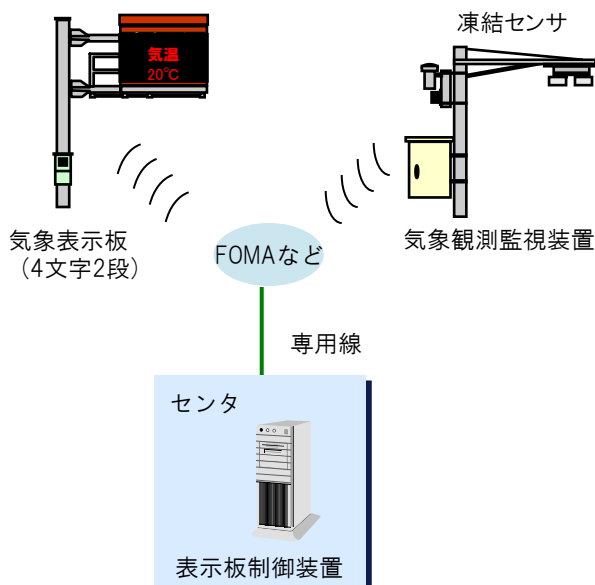
凍結センサから状態変化検知時にデータ(路面状態、気温、路温)を受信するだけでなく、任意の設定時刻において自動的にデータを収集したり、特定のセンサを指定してデータ収集が行えます。

●表示板制御

凍結センサの収集データを基に連動する表示板を自動制御するだけでなく、表示板が現在表示している内容を取得したり、表示板の消滅制御が行えます。

また、地図画面上で表示板の最新の状態を確認できます。

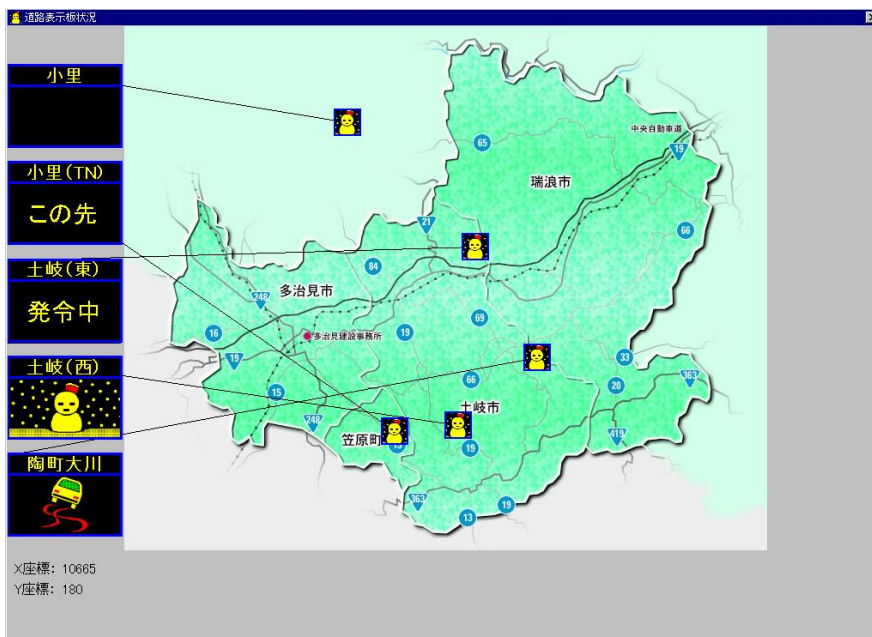
システム構成(例)



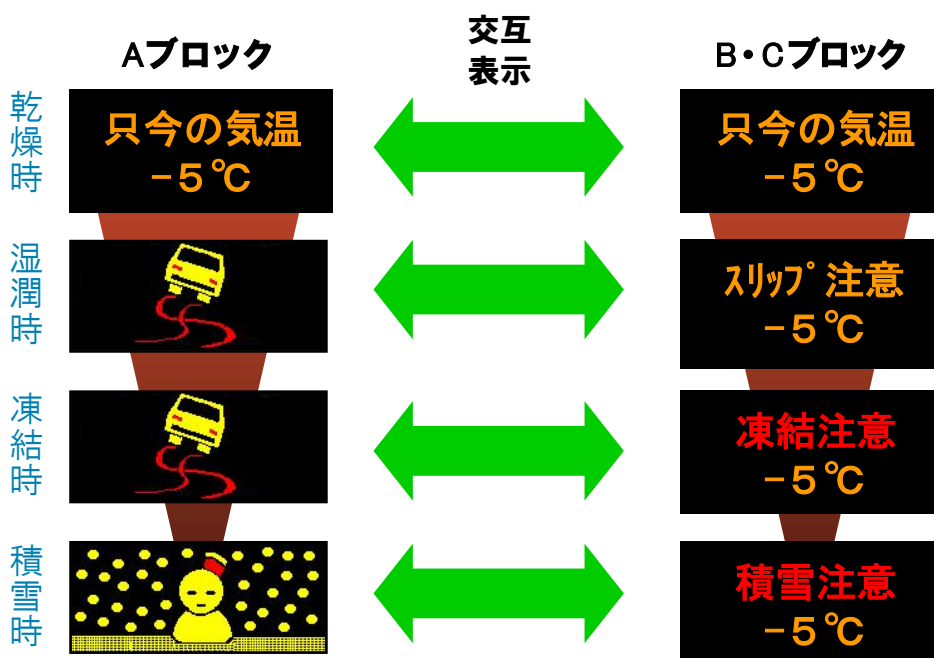
画面イメージ

路面状況及び表示板表示内容をスピーディに把握できます。

●表示板制御画面



表示パターン(基本表示パターン)下記以外の固定パターンも表示可能です。



道路交通確保と住民サービスの向上をサポートいたします！